



東北復興支援シンポジウム 「放射性物質汚染に関する被災地の現状と課題（次世代へ向けての技術継承）」を開催

概要

東日本大震災に伴う原子力発電所の事故による東北の放射能汚染は、国を挙げて解決しなければならない問題です。現在、徐々に放射能汚染被災地域の除染が進んでいるものの、住民が戻れる地域は僅かです。また、福島県飯館村でも農産物の生産が開始されましたが、風評被害や避難に伴う担い手不足により、厳しい状況が続いています。この災害は風化させるべきではなく、世代を跨って引き継ぎ、解決していかなければなりません。そのため、被災地域の最前線で活躍している様々な分野の科学者を本学にお招きし、若い世代に現地の現状や問題点、また、今後の使命について理解を深めてもらうためのシンポジウムを開催します。

背景

東日本大震災から3年以上が経過し、放射能汚染被災地域は徐々に除染が進んでいるものの、課題も多く、住民が戻れるようになった地域はごく僅かです。除染後の農地においては、水稻の実証栽培を実施し、安全なお米の収穫ができることがわかりましたが、風評被害によって、消費者にはなかなか手にとってもらえません。放射能汚染は、今の学生が社会人となり、中堅と呼ばれる頃になってようやく解決策が確立し、評価が分かる長いスパンのものであります。この災害を風化させることなく、様々な研究分野や行政の取組を知ることで現状の理解を深め、次世代への教訓として情報・技術の継承を行わなければなりません。そこで、九州大学と福島県飯館村の主催により、被災地域の現状と課題に関するシンポジウムを開催する運びとなりました。

内容

福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性セシウムの中で、セシウム137（以下、セシウム）は半減期が30年程度とされています。放射性物質の飛散による避難地域では、未だ10万人を超える方々が避難先での生活を強いられており、帰還困難区域では更に長期的な避難が必要とされ、帰還が延長されることによる帰還意識の低下のために自治体の存続すら困難となるなど、問題が山積しています。飛散したセシウムはその性質上、粘土の層間部分に強く結びつき、容易に取り出すことができず、また、植物体への吸収が非常に小さいことが報告されています。様々な分野の研究を進めることで、セシウムの性質やその吸着特性を解明し、科学的知見により安全性を評価することは非常に重要です。また、除染により発生している除染廃棄物量は膨大であり、その処理方法は長期的な影響を勘案することが求められています。本シンポジウムでは、このように現地で活躍する様々な科学技術の専門家から、放射能汚染の取組の現状や残された課題、また今後の展望などに関して講演いただきます。シンポジウムの最後には総合ディスカッションを行うことにより、被災地域から離れている九州・福岡の学生の認知を深化させ、次世代への教訓として、その継承を行います。

「放射性物質汚染に関する被災地の現状と課題（次世代へ向けての技術継承）」

- ・日時：平成26年12月11日（木）13時～17時
- ・場所：九州大学箱崎キャンパス 中央図書館 4階 視聴覚ホール
- ・定員：150名
- ・主催：九州大学、福島県相馬郡飯館村

■効果・今後の展開

放射能汚染被災地域における汚染に関する現状を理解し、学生の身近な問題としてとらえ、その解決策に貢献する専門分野の人材を育成します。被災地域から離れた九州・福岡ではなかなか認知、理解できない問題ですが、我が国が解決、克服しなければならない最重要問題の一つであり、学生に様々な貢献の可能性を考える機会を与えます。また、問題の解決は容易ではなく、長い戦略が必要です。問題の風化を防ぎ、次世代への教訓として、その継承に努めます。

【お問い合わせ】

大学院農学研究院 教授 凌 祥之（しのぎ よしゆき）

電話：092-642-2909

FAX：092-642-2914

Mail：yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp

放射性物質汚染に関する 被災地の現状と課題 (次世代へ向けての技術継承)

日時 12月11日(木) 13時より

場所 九州大学箱崎キャンパス
中央図書館4F視聴覚ホール

13:00 開会の挨拶 定員:150名

九州大学理事 山縣由美子

13:10-13:40

福島県の放射能汚染地域の現状と農業再生に
向けての課題

国際農林水産業研究センター(前飯館村役場) 万福裕造

13:40-13:55

セシウムの粘土への吸着

産業技術総合研究所 森本和也

13:55-14:25

最先端科学技術により暴かれた福島の土壌に
あるセシウムの実態

日本原子力研究開発機構 矢板毅

14:25-14:45

鉍物が及ぼす除染・減容化への影響

国際農林水産業研究センター 八田珠郎

14:45-15:00 休憩

15:00-15:20

セシウムのホットスポットとしての調整池

産業技術総合研究所 鈴木正哉

15:20-15:40

エネルギー・資源循環型営農の方向性

農業・食品産業技術総合研究機構 薬師堂謙一

15:40-16:00

福島県における九州大学の取組み

九州大学大学院農学研究院 山川武夫

16:00-16:15

産官学連合による研究の紹介

物質・材料研究機構 山田裕久

16:15-16:50 総合ディスカッション

コーディネーター

九州大学大学院理学研究院 横山拓史

国際農林水産業研究センター 安中正実

16:50 閉会の挨拶

九州大学大学院農学研究院長 平松和昭



農地除染により発生する土壌廃棄物(飯館村)



水稲実証栽培後に農家と意見交換する講演者(浪江村)

キャンパスマップ



主催 福島県相馬郡飯館村、九州大学

協力 日本原子力研究開発機構、物質・材料研究機構、産業技術総合研究所、
農業・食品産業技術総合研究機構、国際農林水産業研究センター

お問い合わせ 九州大学農学部庶務係 〒812-8581福岡市東区箱崎6丁目10番1号

電話:092-642-2802 e-mail;nossyomu@jimu.kyushu-u.ac.jp